

経営情報学部専門ゼミナール 原ゼミ 案内

本専門ゼミの概要

本ゼミは、今や広く普及している ICT 技術(IT 技術)における実践的な知識を身につけることを目的とする。その具体的手段として、"独自性のある"何かしらのコンピュータソフトウェアの作成を行う予定である。プログラミングそのものが主目的ではなく、プログラムの設計・開発・運用・改良という PDCA サイクルを実践することで目的を達するものである。

また、4 年次の卒業製作としても、3 年次からの継続的なプロジェクトとすることで、十分な時間を充てる予定である。ただし、各自のスケジュール進行によって、各自の企画に関連する内容の卒業論文の執筆への移行も考慮する。

加えて、「発表(プレゼンテーション)をする」という技能は、就職活動のみならず、社会に出ても必須であるという方針に則り、その実践・指導もゼミ内で意識して行う予定である。

2016 年度開講時間

木曜日 3 時限目

2016 年度内容

2016 年度のゼミナール I は、以下の 2 コースのどちらかを学んでもらう予定である。

※4 年次のゼミナール II での学習内容は、原則的に 3 年次からの継続的内容となる。

A. 各自の企画によるソフトウェアプログラミング

ソフトウェアの企画/設計/開発(+使用/改善)という PDCA サイクルを実践する。

プログラム言語は限定しない(VBA、VB、Android(Java)、HSP、...etc)。

B. 学内利用ソフトウェア製作プロジェクトへの参加

原ゼミの学生が数年前から始めた、

YGU 学生の利用を前提としたソフトウェアプロジェクトの継続開発を行う。

趣旨に沿ったものであれば新規プロジェクトを立ち上げることも可能である。

※現在は「スチューデントアドバイザー支援ソフトウェア」プロジェクトがある。

共通 資格試験受験

ゼミ学習の一環として、情報処理技術者試験のうち何かしら

(IT パスポートや基本情報技術者)を 2 月までに 1 回は受験してもらう¹。

ゼミでの講習は行わない²が、学習アドバイスは適宜行うことがある。



注意事項

本ゼミは 2010 年度から開講したゼミであり、現時点でまだ卒業生が少ないため、到達目標・運営に関して試験的な部分が多いことを留意してください。

上記理由もあり、本ゼミでは学生自身の自主的な取り組みが非常に重要になります。特に、「課題に取り組むのはゼミの時間だけでいい」と考える学生さんや、「明日はゼミの日だから、先週の回から放置していた作業や課題を進めておこう」という学生さんには、極めて不向きです。

¹ 合否は成績(単位)に影響しない。

² それなら私が担当の「資格情報技術」を履修してよ！という話です。

2015 年度までの状況

以下、途中履修放棄者を除く。

年度	人数	3年生の作業内容
2010	4名	原ゼミ初年度。いろいろと試行錯誤。
2011	3名	ニュースレビューと、そこからのトピックの詳細調査 ³ 。
2012	7名	HSP 基礎学習と、各自の企画/開発（学生支援、ゲーム）
2013	7名	HSP 基礎学習と、各自の企画/開発（ゲーム）
2014	8名	HSP 基礎学習と、各自の企画/開発（ゲーム）
2015	8名	HSP 基礎学習を終え、各自の企画/開発に取り組中（各種支援系、ゲーム）

申し込みに際して

本ゼミを希望する学生さんは、全体共通の申込書にある「記述欄」に以下の項目を回答して提出して下さい。

- ① 志望動機（200 字程度でよい⁴）
※4 月からの講習内容を左右するので具体的だとうれしい。
- ② 希望するコース（A・B のいずれか）
- ③ プログラミング経験の有無（有る場合は、プログラミング言語名も記述）
- ④ 既に取得している資格名（MOS、IT パスポートなど。「無し」でも全く問題はない）
- ⑤ 挑戦したい資格名（MOS、IT パスポートなど）

以下は、コンピュータに関する知識水準を知るための項目です。応募が多数だった場合の選考の材料にさせていただきます（書き方に関する質問は受けません）。

- ⑥ 自宅（住んでいるところ）でのインターネットへの接続環境
- ⑦ 自宅で自分が主に使っている PC について（所持が貸与 PC のみなら、貸与 PC について）
 - A) 形状（ノート、デスクトップ、タワー、タブレットなど）
 - B) メーカー
 - C) 機種
 - D) 搭載 OS
- ⑧ 自宅で PC を何に使っているか
※「インターネット」と「メール」は書かなくて良い⁵。

連絡について

学生さんへの連絡は、申込書に記入したメールアドレスに行いますので、普段からメールのチェックを怠らないで下さい⁶。

問い合わせ先

原 敏 (Satoshi HARA)

研究室：40 号館 3 階 3-2 号室(オフィスアワー以外でも居れば対応可能な場合あり)

E-mail：s-hara@pop.ygu.ac.jp ※メールは、最低限のマナーを守って書くこと（あたりまえ）

なお、ゼミの見学は可能であるが、事前に問い合わせること。

³ この年度まではプログラミング以外の研究テーマをもつ学生が居た。

⁴ いや、熱く語りたなら、それ以上でも問題はない。

⁵ そもそも「インターネットに使う」って日本語がおかしいよ。

⁶ メールを読まないような人には、うちのゼミは無理（本音）。